

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○三重県の視覚障がい教育の中核的役割を果たすとともに、児童・生徒一人ひとりが尊重され、夢や目標に向けチャレンジできる学校
(2)	育みたい児童・生徒像	○夢や目標（スポーツや文化的な活動、日常の課題、国家試験合格や優れた施術者になること等）を自ら定め、挑戦する児童・生徒。 ○自他の命を大切にする、人権感覚にあふれた児童・生徒。 ○仲間とともに積極的に活動し、互いを尊重し理解し合う関係を築いている児童・生徒。
	ありたい教職員像	○視覚障がい教育に関する専門性の維持・向上に積極的に取り組み、関係機関と連携をはかりながら視覚障がい児・者の学習支援やセンター的機能の充実をはかろうとする教職員。 ○高い倫理観と豊かな人間性をベースに、教育に対する使命感と誇り及び児童・生徒に対する愛情と責任感を持ち、協働してその職責を果たす信頼される教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈児童・生徒〉 将来の自立と社会参画に向けて、学齢児においては「生き抜いていく力」につながる知識やスキルの習得を、成人生徒においては国家試験に合格し、希望進路が実現することを望んでいる。 〈保護者〉 学力や基礎生活力の向上に向けて専門的な視覚障がい教育が受けられることや、将来を見通した情報提供並びに個々に応じた進路指導が期待されている。また、視覚障がいの特性をふまえた危機管理体制の充実が望まれている。 〈地域〉 視覚障がいのある乳幼児の保護者への支援や他校に在籍する視覚障がい児童・生徒への学習支援、中途視覚障がい者への生活支援の充実が望まれている。
-----------------------------	--

		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		〈家庭〉 点字等の専門的な指導を充実するとともに、教育内容や進路に関する担任等との相談の機会を増やしてほしい。 〈地域社会〉 盲学校の教育内容や視覚障がいの理解につながるような情報を発信してほしい。 〈学校・幼稚園・保育園等〉 視覚障がい児童・生徒に対する指導について、専門的な見地から助言してほしい。	〈家庭〉 本校の教育方針に対して理解と協力を進め、共通した方向性で家庭教育を行ってほしい。 〈地域社会〉 本校の取り組みを理解し、各種行事に参加したり、啓発活動を行う機会を提供したりしてほしい。 〈学校・幼稚園・保育園〉 早期からの適切な支援を行うべく、早めに対応できる体制を整えてほしい。
(3) 前年度の学校関係者評価等		・マネジメントの進め方として、評価方法、記載内容や文言、課題の整理に課題があるのではないか。 ・目標に対し取り組んでいるものに対して、課題があきらかにされていないのではないか。 ・児童・生徒等が小集団であることから、アンケート数値が良い方に偏るのではないか。また校長による児童・生徒面談では、はかれないのではないか。 ・これからどのように地域との連携していくのか。 ・情報メディアの取組として、合理的配慮の発信や、発信先等を明確にさせるとよいのではないか。 ・センター的機能として、小中学校への周知や卒業後の進路指導に重点を置いてはどうか。 ・「学部」という考え方、進め方に偏りがあるのではないか。 ・児童・生徒数が減少していく中で、今後の学校のあり方を検討すべきではないか。	
(4) 現状と課題	教育活動	・児童・生徒数が少ないことから、社会性向上につながる集団での教育活動には弱みがあるが、個々の児童・生徒の状態に応じた細やかな学習計画（理療科においては、課外授業も含む）を設定して取り組めることが強みである。 ・理療科では、資格のない生徒の就職が困難な状況にあることから、国家試験に合格するための専門教育と指導力の向上を進めるとともに、就職先の確保に向けて、一層の啓発活動と進路開拓を行う必要がある。 ・学校内における高い専門性を持った指導を担保しつつ、センター的機能として他の学校等への支援に経験豊富な教諭を派遣していることから、全ての教員に対して、知識や専門性向上のための研修体制を一層充実させ、視覚障がい領域の免許取得を推進することが急務である。 ・地域や保護者からの要望を受け、幼児等に対する支援体制を構築し幼稚部設置に向けた取組を推進していく必要がある。	
	学校運営等	・広く県民に対して、視覚障がい児・者の子育て、教育、生活等での相談先として知られてきている反面、全県一区の学校であるため支援が広域におよび、近隣地域等との連携が深まりにくい状況がある。 ・視覚障がい者の特性に配慮した巨大地震や津波などに対する防災・減災の取り組みを一層進めていく必要がある。 ・本校の支援活動や支援教育の取組等を積極的に外部に発信し、視覚障がい教育について啓発していく必要がある。 ・時間外労働が一部の教員に偏っていることから、業務分担の平準化を図るとともに、全体的な総勤務時間の縮減を図る必要がある。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	・児童・生徒の健康管理意識、体力の向上、基礎学力の向上にとりくみ、仲間とともに、自ら進んで課題に挑戦する態度を養う。理療科においては、国家試験の合格と優れた人材の育成をめざすとともに、中途視覚障がい者の自立と学び直しのための教育課程について具体的な検討を進めていく。 ・将来の社会参画と自立に向けて、幼・小・中・高・専と継続したグランドデザインを構築しキャリア教育の実践を積み重ねる。 ・教職員の視覚障がい教育に対する専門性の維持、向上をはかるため、3年間で一定の視覚障がい教育の専門性を身につけられるような研修体制づくりをめざす。 ・幼児教育を充実させるための幼稚部を設置する。
学校運営等	・県下全域に対するセンター的機能の充実をはかるとともに、学校所在地域との連携を強めていく。 ・児童・生徒の生命の安全を第一に考え、より幅広い視点から危機管理体制の見直しを図る。 ・県内のすべての視覚障がい児・者が、本校の存在や教育内容について知ることのできる状態を目指して、教育や福祉等の行政に対する啓発を一層強化していく。 ・安全衛生委員会を中心に総勤務時間の縮減について検討し、実効ある取組を進めていく。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします

項目	取り組み内容・指標	結果	備考
学習・生活指導の充実	(1)キャリア学習プログラムに則った個別の指導計画に基づき、児童・生徒の分かりやすい授業に取組み、一人ひとりの学習意欲や基礎学力の向上を図る。(小、中、普、教務部) 【活動指標】児童・生徒の情報交換会を持ち必要な情報交換が得られたか。 【成果指標】児童・生徒の個別の指導計画の年間目標1項目以上達成する。	【活動・成果】 各部の指導について、相談や情報交換をこまめに行い、連携して指導に当たることで、成長につながった。 個々の目標達成については、年度末に評価を行い全児童生徒に年間目標1項目以上達成されている。	
	(2)就労を見据え、生徒の実態・適性を的確に把握し、生徒個々が適切な進路を見つけられるよう指導・支援する。(理) 【活動指標】長期休業中の課外授業の実施、実力テスト、模擬試験を年5回実施する。長期休業中に各学年に応じた校外実習・見学を実施する。 【成果指標】国家試験の全員合格およびその資格を生かした進路保障。卒業後の進路保障。	【活動・成果】 生徒個々の実態に合わせて課外授業を行い、年5回のテストを実施した。卒業学年の生徒に対して、就労のための実習・見学を実施した。他の学年の生徒は、進路指導に関する懇談や情報提供活動で代替した。	

安心・安全な学校生活	(3) 舎生の実態を的確に把握し、一人ひとりに応じた支援・指導の充実を図る。(寄宿舎) 【活動指標】 1 保護者、学級担任、舎務係と連携を密にする。 2 職員間及び宿直舎監との毎日の引き継ぎを確実にし情報共有を図る。 3 舎職員会、舎研修会で職員間の指導の統一を図り、個別の指導計画を基に、成果と課題を毎学期検討する。 【成果指標】 1 保護者、学級担任と学期に2回以上懇談を実施し情報共有する。 2 宿直舎監との情報共有の時間を1日3回とる。 3 個別の指導計画における個々の目標を1つ以上達成する。	寄宿舎で個別の指導計画を作成するにあたり、保護者、学級担任との懇談を実施し、日常的に学級担任と連携し、情報共有に努めた。寄宿舎の会議毎に、舎生の様子について報告することで、指導の統一を図ることができた。舎監との情報共有を日に3回、保護者や担任と学期に2回以上の懇談も達成できた。	
	(4) 児童・生徒に、読書及び図書館利用を勧め、豊かな人間性を培い自学能力を育成する。(情報メディア部) 【活動指標】図書館便りを発行し、利用を促す。 【成果指標】貸し出し利用率80%	【活動・成果】 図書館便りを発行し図書利用を促した。 コロナ禍で、密にならないよう呼びかけ、92%の貸し出し利用率となった。	
	(5) 視覚障がい関連図書を積極的に収集する。(情報メディア部) 【活動指標】専門誌などの参考文献や、雑誌の新刊案内などを参考に収集する。 【成果指標】各学期10冊。	【活動・成果】 視覚障がい関係の図書を44冊収集し、達成した。	
	(1) 自他の命を大切に、互いを認め合い、いじめを許さない学校づくりを推進する。(生活保健部、教務部) 【活動指標】いじめ防止の取組を通じたアンケートを実施する。 【成果指標】いじめ発生件数0。(いじめ事象の発生時は迅速に適切な対応をとり、再発防止に努める)	【活動・成果】 いじめについてのアンケート、ピンクシャツ運動などに取り組み、意識を高めた。いじめ発生件数0で、達成。	
	(2) 自らの命を守るため、防災・減災に対する意識を高く持ち、視覚障がい者の特性を考慮した安全行動がとれるようにする。(生活保健部、寄宿舎、総務部 他) 【活動指標】様々な状況を想定した避難訓練(火災・地震・スクールバス)を行い、アンケートを行う。)) 【成果指標】昨年度の2回を越える訓練の実施。(回数または種類の増加)	【活動・成果】 コロナ禍により、時間短縮、密集回避に配慮して、火災、抜き打ち地震、不審者対応、SB避難、備蓄食試食などを行った。実施回数は昨年と同等だった。寄宿舎では、避難訓練は年3回に変更し実施した。100%。	

	(3) 学校給食における事故防止への校内体制の整備および強化。(生活保健部) 【活動指標】食物アレルギー、疾病に起因する食事食材の調査、異物混入を未然に防ぐ複数での対策 【成果指標】危険異物混入0。	【活動・成果】 コロナ禍で、給食を別室喫食にしたが、異物混入や給食トラブルはなかった。(0 で、達成)	
障 が い の 理 解 と 啓 発	(1) 早期教育をより充実させるために、プレ幼稚部ひだまり教室及び親子のつどいを実施し、幼稚部の正式な設置を目指す。(支援部) 【活動指標】①「ひだまり教室」年間 78 回 ②「親子のつどい」年間 9 回 ③「でアイふれアイ相談会」年間 8 回 (①～③の回数は 4/27 現在の目標) 加えて、保護者、関係機関向けの「講演会」を2学期末をめぐりに年1回企画・運営する。 【成果指標】 ①から③の活動については年度末、講演会については事後アンケートを行い、「よかった」の項目について、保護者の満足度「80%以上」	【活動・成果】 ①コロナ対策で1ヶ月半休校となり、78回中17回分の実践は中止されたが、61回実施した。 ②「親子のつどい」の実施は12月末現在、希望者の減少により、2回にとどまっている。 ③来校相談者はなかったが、幼稚園・保育園に2回程度出向いた。 「講演会」については、コロナ対策のため、実施できなかった。 保護者の満足度は、95%で達成。	
	(2) 学齢期の児童・生徒に対する通級的な指導を充実させる。(支援部) 【活動指標】個々に応じて、必要回数実施。 【成果指標】アンケートで「よかった」の項目で、本人・保護者の満足度80%以上。	A児に29回、B児に9回、C児に8回実施。満足度調査は満足が、100%で達成。	
	(3) 卒業生支援について、必要時に迅速な対応を行う。(支援部) 【活動指標】実際の活動実績と前後の活動実績を考慮する。 【成果指標】支援状況の記録を作成し、卒業生や進路先へのアンケートで、満足度80%以上。	【活動・成果】 就労支援が必要な生徒には、巡回を行い、就労先の担当者との連絡を密にとっている。卒業生及び進路先へのアンケートでは、満足度80%を達成。	
	(4) 関係機関と連携し、視覚障がい児・者の理解に向けた啓発活動に取り組む。(支援部、人推委) 【活動指標】県下全市町の福祉行政機関や関係諸機関への訪問、関係機関と連携しながらイベント等へ参加する。 【成果指標】関係諸機関への訪問、連携したイベント参加率、昨年度比10%増。	【活動・成果】 年2回、県内29市町の関係機関を訪問した。訪問することで、職場開拓にもつながったが、保健師会、医師会、幼稚園・保育園長会との連携の必要性を示唆された。 地域のイベントは、コロナ対策で中止となっていて、昨年	

		度111回であったが、今年度は107回の訪問・参加となり、96%の参加で、達成できなかった。	
--	--	--	--

(2) 学校運営

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします

職場環境の向上	(1) 総勤務時間を縮減する。(管) 【活動指標】 ① 時間外労働時間を正確に入力するよう啓発を継続するとともに、時間外労働時間の縮減について、安全衛生委員会が中心となって組織的な改善に取り組む。 ② 定時退校日(もう帰るデー)を月1回設定する。 ③ 学校閉校日を夏季休業中に4日設定する。④ 年休等の取得を呼びかける。 【成果指標】 ① 一人あたりの月平均時間外労働: 15 時間以下。 ② 1 ヶ月の時間外労働時間 80 時間超え延べ人数0。 ③ 1 年間の時間外労働総時間360時間超え人数0。 ④ 年休取得率 75%、夏季休暇取得日数 100%。	【活動・成果】 ① 時間外労働の入力の啓発は行ったものの、職員3分の1程度の入力にとどまった。必要性を伝え、今後も続けていきたい。月平均時間外労働は、2. 6時間。 ②③ともに0人。 ④ 年休取得率は39%で、夏季休暇取得日数は100%であった。	
	(2) 会議時間を短縮する。(管、総務部) ・ 会議を1時間以内または、勤務時間内に終了する。 ・ 会議の時間短縮のため、検討に時間を要する内容は、回覧やメールで事前に伝える。 【活動指標】 ① 来年度の会議の精選に向けて、会議時間等を記録する。 ② 職員会議を1時間以内で終了する。 ③ その他の小会議を1時間以内で終了することを目指す。 【成果指標】 ①②達成目標率 100%以上。 ③目標達成率 90%以上。	【活動・成果】 17 時までに会議を終了することは、一部を除いて実行することができた。ただ、今年度の前半は、コロナ対策で学校行事の変更や、消毒などの新たな業務の増加で、十分な休憩時間も確保できない状況であった。 会議を効率的に行うために、1つの資料としてクリップ止めし、事前配布などを行ったが、職員会議の1時間以内は全てではなかった。 ①100%、②85%(14 回中 12 回達成)、③86%	
	(3) 「合理的配慮」の充実を図り、障がいのあるなしにかかわらず、支援の依頼しやすい職場環境づくりに努める。(管) 【活動指標】	【活動・成果】 オフサイトミーティングは、三密を避けるため実施できず。	

	・事前テキスト配信等、情報共有の遅れがないように努め、学期ごとに状況の確認をする。 ・オフサイトミーティングの実施 【成果指標】 ・教職員満足度アンケート「支援の依頼しやすい職場」項目で、全員「やや満足」以上。	教職員満足度アンケート「支援の依頼しやすい職場」項目で 59 人中、満足 12, やや満足 37, やや不満足 9, 不満足 1。全員の「やや満足」は達成できず。	
教職員の資質向上	(1) 教員の視覚障がい教育における専門的知識を向上させ、更に実践的な指導や支援ができる高度なスキルの習得を目指した研修を実施、計画し専門性の継承を行う。(研修部) 【活動指標】 ① 次の研修を実施する。研修会は定時に終了する。 転入職員のための新任研修: 4回、学部研修・寄宿舍研修: 10回、全体研修: 6回 ② 校内の人的資源やオンラインを活用し、学部間で連携し校内での研修を充実させる。 ③ 「三重県立盲学校における専門性について」を用いて研修を行い、個人や学部の課題を明確にし、専門性を高める。 ④ 視覚障がい領域の免許取得に向けた講座受講の促進。 【成果指標】 ① 事後アンケートによる満足度80%以上。研修会の定時終了80%。 ② 自校教員による校内研修100%。他学部への講師派遣を年1回以上。 ③ 「令和2年度版三重県立盲学校における専門性について」の改訂とチェックリスト作成の準備。 ④ 視覚障がい領域の免許取得率80%以上。	【活動・成果】 ① の満足度と、定時終了については、オンラインを活用したことで、予定とおり研修を行え、達成しつつある。 ② 校内研修については、他学部の研修への一般参加、講師として他学部の研修を行うなど、連携することができた。校内で研修の講師を務める人材が増え、全体のスキルアップにつながった。 ③ 「三重県立盲学校における専門性について」を改定し、「専門性チェックリスト(基礎編)」を作成した。 ④ 76%で、達成できず。	
	(2) 法令を遵守し、人権感覚豊かで体罰や暴言、ハラスメントのない職場づくり。(管) ① 職員研修等により知識や意識の向上を図る 【活動指標】 a. コンプライアンス研修の実施。 b. コンプライアンスアンケートの実施(年3回以上) c. 職場ハラスメントに対応する組織体制等の構築 【成果指標】 法令等に抵触する事案発生件数0、体罰、暴言の発生件数0、ハラスメント発生	【活動・成果】 職員会議でコンプライアンス研修を行う。アンケートについては1回実施。 「法令等に抵触する事案発生件数0、体罰、暴言の発生件数0、ハラスメント発生件数0」については全て達成。	

	件数0 (3)キャリア教育学習プログラムを活用し、小中普専で継続した指導の充実を図る。 (支援部、教務部) 【活動指標】 キャリア教育学習プログラムを活用して児童・生徒の実態把握を行い、個々の学習課題を個別の指導計画に反映する。 【成果指標】 個別の指導目標について、学期ごとに目標の達成度について記入する。 (4)最新の支援機器やICT機器に関する使い方や指導方法をサポートする。(情報メディア部) 【活動指標】校内研修を持つ 【成果指標】校内研修参加率80%	【活動・成果】 各学部ともにキャリア教育学習プログラムを活用し、児童・生徒の課題を個別の指導計画の目標に反映できた。 また、成果指標にしたがって各担当が確認記入し、保護者との懇談等に役立てることができた。 【活動・成果】 コロナ禍の中、三密を避けるために、グーグルクラスルームを用いて、児童・生徒に休校中の学習支援指導を行った。職員間でも、職員会議などのオンライン会議を行うことができた。 ICTの校内研修として Google アプリケーションの研修を実施したが、視覚障がい職員に配慮されてものではなかったため、課題が残った。満足度60%。	
--	--	--	--

改善課題

- ICTの導入、活用に係り、機器の管理体制や児童・生徒への継続的な支援、また保護者への負担軽減、視覚障がいのある児童・生徒向けのICT教材の開発、教員側のICT対応のスキルアップが課題である。
- 学校の教育内容として早期教育に係る支援の充実や幼稚部設置等に向けた、外部機関(眼科医・保健所等)との連携、周知等に課題がある。
- 専門性の継承・向上に向けた研修の充実を図るため、組織的な研修体制の構築が課題である。
- 業務の公平性・教職員間の情報共有に課題があるため、課題の具体を明らかにしながら意見交換をする場を設け、解決策を講じる必要がある。
- 寄宿舎・校舎の移転に関して今後の本校の将来を考える機会と捉え、グランドデザインを構築し、グランドデザインに立脚した校舎設計を考える。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題 と次への取組方向	「改善課題」について委員と認識を共にした。専門性向上については概ね達成されている。在校生数により学級数が変動し、それに伴って職員数も変動するので、専門性の継承が課題と考えられる。聴覚障がいの子の支援のシステムと同等のライフス
---------------------------------	---

	ページをつなぐトータル窓口が必要といえる。 校内の情報共有については、具体的に意見を掘り下げて把握し、改善策を考えていくべきである。
--	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・活動の評価を行うときに評価の視点が明確にわかるように、成果指標に数値等の設定を行うこと。（一部がそうになっていない） ・ICT教育に対応するため、教職員の研修を充実させ、自校講師などの育成を図る。 ・視覚障がいの子のライフステージをつなぐ支援システムの構築のため、関係機関への働きかけを進める
学校運営についての改善策	・教職員アンケート、保護者満足度アンケートのコメントや数値を詳細に分析したうえで、解決すべき課題を明らかにし、改善につなげる。 ・職員の人材育成と業務の引き継ぎや専門性の向上、専門性継続の将来的な計画を立てる必要がある。